World Cancer Day 4 February

Close the care gap

国際対がん連合（UICC）日本委員会主催

ワールドキャンサーデー2022

2022年2月4日(金) 限定配信 参加費無料 要事前申込 QRコードからお申し込みください。
ワールドキャンサーデーライブセッション開催

ワールドキャンサーデーは、毎年2月4日に、一人ひとりが、がんに関する意識を高め、
この病気に対して行動を起こすことを目的として、世界各地でさまざまな取り組みを行う日です。
UICCの取り組みの一つである「Light up the world」と共に、
2022年は2月4日限定配信の2つのライブセッションを開催いたします。
セッションはZoomウェビナーを用いて開催いたします。
詳細は、https://www.worldcancerday.jpをご覧ください。

ライブセッション1

がん患者が医師と治療選択を共有するためには
~shared decision making~

お申し込みはこちらから

- 開催日時：2022年2月4日(金)16:00～17:00
- 開催形態：Zoomウェビナー（要事前申込/無料）
- 主　　催：UICC日本委員会
- 共　　催：一般社団法人がん医療の今を共有する会（ACT）

男性の三人に二人、女性の二人に一人ががんになる現代の日本にあっても、がんと診断されてうろたえない人はほとんどいません。がんと診断された患者が、医師と治療選択を共有し、医療者の支えのもとに納得して治療に向き合えるにはどうしたらいいのか。がん治療の専門家とがん患者が、ディスカッションを行います。

司会：垣添 忠生　UICC日本委員会幹事・日本対がん協会会長／国立がん研究センター名誉総長／(公財)医用原子力技術研究振興財団理事長

趣旨説明　垣添 忠生

話題提供.1　「がん患者の医療選択」を考える
金田 信一郎（作家・ジャーナリスト・食道がん経験者）

話題提供.2　超高リスクの前立腺がんと診断されて
山口 博弥（読売新聞東京本社編集委員・前立腺がん経験者）

話題提供.3　がんの治療法選択における患者さんの意向とエビデンスの狭間
秋元 哲夫（国立がん研究センター東病院副院長・放射線治療科長）

話題提供.4　がん患者の治療説明・治療選択共有コミュニケーションのポイント
渡邊 雅之（がん研有明病院副院長・食道外科部長）

ディスカッション　がん患者が医師と治療選択を共有するためには
~shared decision making~

ライブセッション2

コロナ渦の受診控え
～病院に行くのをためらっているあなたへ～

お申し込みはこちらから

- 開催日時：2022年2月4日(金)19:00～20:10
- 開催形態：Zoomウェビナー（要事前申込/無料）
- 主　　催：UICC日本委員会
- 共　　催：MSD株式会社

コロナ渦による受診・検診控えにより、以前よりもがんが進行した状態で発見されるがん患者さんが大幅に増加することが懸念されています。ワールドキャンサーデーという日に改めてこの問題を専門家と一緒に考え、検診控えや受診控えをしない、させないことを目指しましょう。

司会：野田 哲生　UICC日本委員会委員長・がん研究会がん研究所所長

開会挨拶　野田 哲生

講　演.1　データで読み解く受診・検診控えによる日本のがん医療への影響（質疑有）
中釜 斉（UICC日本委員会幹事・国立がん研究センター理事長）

講　演.2　コロナ禍で検診・受診を妨げているものは何か ー患者さんの目線から（質疑有）
垣添 忠生（UICC日本委員会幹事・日本対がん協会会長）

講　演.3　受診・検診をためらわないで―医療現場から皆さまにお伝えしたいこと（質疑有）
佐野 武（UICC日本委員会TNM委員会委員長・がん研究会有明病院院長）

クロージング　野田 哲生

UICC日本委員会加盟組織によるセッション動画をオンデマンド配信いたします。
詳細はワールドキャンサーデー特設サイトをご覧ください。
配信日時：2022年2月4日(金)20：20より配信
※2月4日当日限定配信する2つのライブセッションとは異なるセッションです。

【本件に関するお問い合わせ】E-mail wcd0204＠ellesnet.co.jp